

短歌・俳句 交流のひろば

永明短歌クラブ

過ぎて来し日々を思ひて人恋し 梅雨寒むの一日文をしたゝむ

森田健子

真白なる木槿咲きたる雨の中 花の命の儂さ秘めて

消毒にマスクを着用仲間との 距離をおきて南国の踊り

高橋紀代子

再会を待ち焦がれきて不安との はざまに立ちてステップを踏む

朝まだき目ざめて聞きし深夜放送 心に浸み入るアンカーの声

岡本トモ子

長雨にようやく蝉の鳴く声の 夏を限りの儂き命

コロナ禍の七月の庭の半夏生 葉先の白に心癒さる

中島陽子

植ゑつけしメロンに小さき実のなりて 雨のつづきて傘さしかける

梅雨晴間光り入れてて活き活きの自然なりなる事は吉めき

岡田美江子

切り絵なのなんととはなくのひまつぶし しめの絵の具は銀色にする

梅雨晴れの庭辺に白きコスモスの丈低くして花の咲き初む

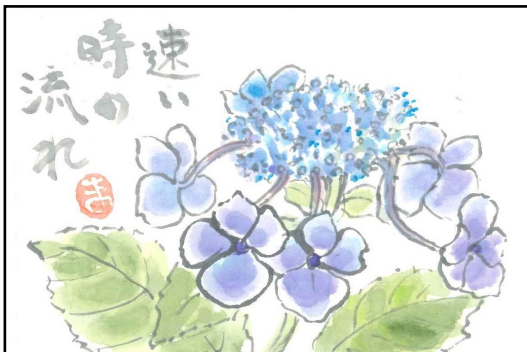
山口博子

梅雨空の広がる青田のそちここに 餌をさがして白鷺の立つ

発行 前橋市永明公民館

〒379-2121 前橋市小屋原町1857-3
電話 266-5775

永明絵手紙の会



作/中森 まさ子



作/中森 まさ子

短歌個人投稿作品

雨上がり日色のベスト 蝶ネクタイ モボの父親 白寿の祝い
子供の頃の夏休みの挑戦が 七〇才の吾を励ます
昭和時期 活気あふれた70年 ウイズコロナで歴史が変わる

明星俳句会

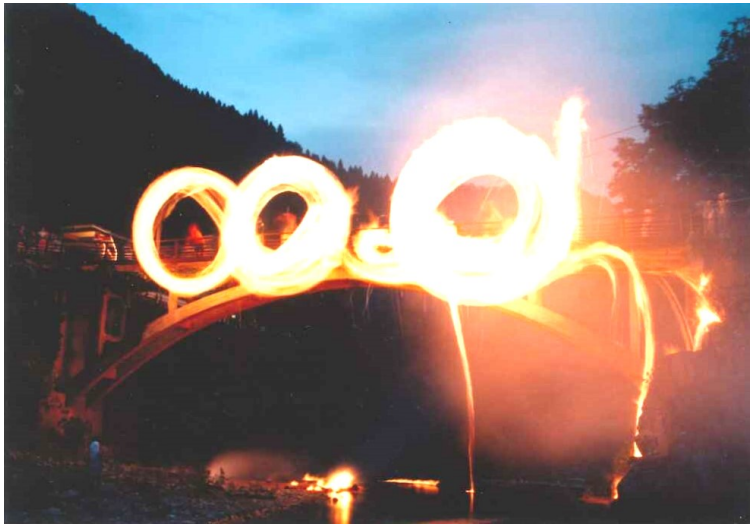
はつ夏の 木とおおぎみる この世界 青木 ひろみ
人影の やうにあやふし 揚羽蝶 宇田川 玉枝
長雨の 去りし蟬の 天下盗る 内田 かづ子
たましいの 軽くなりたる 冷水や 萩原 信一
かぎりなく 夢二の世界 梅雨晴れ間 大空 野人
お互いの 意見平行や 百日紅
代掻きて 代田は蛙の 合唱かな
猫の子や 背伸び欠伸で 一直線
コロナ禍や 十葉の花 白くして
紫陽花や 「渋沢論語」 再読す

俳句個人投稿作品

一二二試歩の声する 青葉風

東上野町 女屋 みつ江

上長磯町 湯澤 悦子
上大島町 吉田 美枝子
荒口町(上天島町出身) 館野 忠次郎



「ひとぼし」
撮影／フォト永明(剣持 誠)